

# みな の歴史散歩 No.30

「三企画展」皆野の俳句「戦中編」開催  
社会教育担当 望月 暁

## 「三企画展」の内容

教育委員会では昨年の『皆野の俳句「戦前編」』に続き、太平洋戦争下の町ゆかりの俳人について3人の俳人を紹介します。

### (1) 持田紫水

旧三澤村小根出身の俳人です。昭和15年招集を受け、現在の南中国、東部インドシナ半島、そして太平洋戦争開戦後はスマトラ島からスラウエシ島へ渡りました。

戦争を題材とした俳句を戦争俳句と呼びます。紫水は戦場や戦闘の様子だけでなく、東南アジアの植物や風景を題材に、現地の季節感や色彩を感じさせる優れた作品を多く残し、昭和17年度馬酔木賞を受賞しました。昭和18年、紫水は病気のため三澤村へ帰還しますが、若くして亡くなりました。昭和25年に建てられた句碑が現在も皇鈴山山頂に建っています。

### (2) 金子兜太

昭和16年、東京帝国大学に入学した兜太は、加

藤楸邨が主宰する俳誌『寒雷』への投句をはじめます。出征までのわずか1年の間、『寒雷』誌上で現在札所34番水潜寺に句碑がある「曼殊沙華ども腹出し秩父の子」の句や、当時の町の様子をエッセイ風の短編にまとめた「狸の應召」、「おだいさん」など優れた作品が生まれました。また俳誌『風』など、戦後活動のスタートとなる作品とともに活躍する沢木欣一、原子公平などとの出会いもありました。

昭和19年、兜太はトラック島へ出征します。赴任後のトラック島は攻略対象から外され、飢えや病気、一方的な爆撃や艦砲射撃を受ける戦場となります。現地では慰安として俳句会が催され、句集「芽たばこ」が編まれています。

### (3) 塩谷孝

戦前から俳誌『初鴨』や『鶴』に投句していた孝は昭和19年招集を受け、大陸に渡ります。現地では陸軍最後の大規模作戦である「大陸打通作戦」が展開されており、孝もその一員として参戦しています。

作戦の記録や戦場で詠んだ作品、兵士としての思いをつづった日記は奇跡的に町へ届き、後に『陣中日記』として刊行されました。

## 「三企画展」のお知らせ

期間 1月16日(月)～29日(日)

※22日(日)は除く

時間 午前10時～午後4時

場所 壺春堂(金子医院隣)

大字皆野1-168番地

※入場無料

## 「記念講演会のお知らせ」

同展開催に伴い、戦時中の金子兜太氏について、田中亚美氏にご講演いただきます。

講演名 「太平洋戦争中の金子兜太氏について(仮)」

講師 田中 亜美氏

1970年生まれ。98年より金子兜太氏に師事。『海原』同人。現代俳句協会会員。日本文藝家協会会員。

日時 1月22日(日)午後2時

場所 壺春堂

定員 20人(定員超の場合は抽選)

申込み 1月13日(金)まで

☑ haiku.minano@gmail.com

※題名を「記念講演会申込」とし、本文に①参加者氏名(最大2人まで)、②電話番号を明記してください。

問合せ 教育委員会事務局 ☎62-4563